

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木第二小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 廣瀬 修一

学校教育目標

学校経営の方針

主体的に学ぶ力・豊かな人間性・たくましく生きる心身を持った児童の育成

本校の教育理念「自他尊重」
・安心・安全で楽しく元気な学校づくり
・やりがいをもって協働できる教職員
・家庭・地域の教育力と連携

今年度の重点目標

○「分からない」を大切にした授業改善 ○安心できる自他尊重の集団作り 自己肯定感の向上 ○自分たちで決める主体的な活動の活性化 安全な環境作り ○基本的な生活習慣の確立 健康・体力の自己管理

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
安心できる環境づくりをする。	2	所属感がもてる学級づくり ほっとルームの活用	落ち着いて授業に参加できる学級が多かったが、なじめない児童もいた。 校内教育支援教室(ほっとルーム)登校をしている児童のニーズに合った、学習支援をすることができた。	より良い学級づくりについて学び取り組む。また、インクルーシブ教育について理解を深める。 「ほっとルーム」のより良い運営方法を、職員で考えていく。
自分を大切にし、相手を認めるために、自ら進んで挨拶をする子に育てる。	2・3	あいさつ運動を実施	生活委員会を主体に、あいさつを促すことで、あいさつの輪が広がった。	引き続き次年度もあいさつ運動を、継続していく。
支援体制の充実	2	ケース会議・いじめ防止対策委員会の実施	支援を必要とする児童に対し、コーディネーターを中心に、職員で連携を図り、よりよい解決方法を開き出すことができた。	会議にかける児童の線引きを、よく検討していく。
校内研究のテーマに沿って、「児童に身に付けさせたい力」を明確にして授業を行う。	1	単元について、毎時間の「めあて」「振り返り」を設けることで、「目標」をはっきりと定める。	研究協議では、児童の変容について話し合うだけでなく、「分からない児童」への具体的な手立てについても考えることができた。また、これからの教科指導計画についても考えることができた。	職員で授業公開を行い、外部講師の助言等も参考にしながら、さらに分からないを大切にしたい授業研究を深めていく。インクルーシブの考え方も少しずつ取り入れていく。
学力における本校児童の実態(学習状況や昨年度からの課題)について把握する。	1	学力向上プロジェクトシートや学状結果分析を活用し、計画的に学習支援を行う。	職員会議等での発信を細かく行ったことで、PDCAサイクルを意識した学習支援計画を立てることができた。	プロジェクトシートを活用して把握した児童の実態から、年間を見通した「目指す児童像」を明確にし、学習支援を進めていく。
児童が主体となる「ドリームまつり」を開催する。	2・3	児童会行事である「ドリームまつり」の企画・運営	児童会が主体となり各クラスに向けて発信することができた。また、クラスでは、ねらいに沿った店を出店し店側も客側としても、楽しく工夫ある取組ができた。	今年度に引き続き、児童が主体となる活動にしていける。
“いきいきタイム”で命を大切にする取組を実施する。	2・3	毎月17日に行う“いきいきタイム”の計画と実施	交通安全や防犯、災害などから身を守る訓練の振り返りができた。	今年度に引き続き、“いきいきタイム”を継続していく。

自ら健康に生活しようとする意欲が育つように指導し、基本的な生活習慣の確立をめざす。	2	保健だよりや日々の声掛け。はみがきカレンダーの実施。	習い事や塾など家庭の状況により、難しい面もあるが、保健だより等で基本的な生活習慣について発信できた。はみがきカレンダーでは、はみがきに限らず自らの健康目標と振り返りを行い、健康に過ごす意識を高めることができた。	家庭の事情も絡み、難しい面もあるが、今後も根気強く発信し、家庭と連携していく。
運動に対する興味・関心を持たせ、親しめるよう努力する。	2	縄跳び週間の実施。体育委員会の遊び道具の貸し出しの実施。	縄跳び週間では、全校児童が休み時間に縄跳びを実施し体力向上に努めることができた。休み時間には、体育委員会での遊び道具の貸し出しを行い、運動に親しむことができた。	今後も、運動する機会を提供し、体力向上に努める。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
・児童アンケートの結果に「あまり思わない」と高数値で回答されている項目について、なぜそのように思うのか掘り下げて次年度を迎えてほしい。 ・先生たちの困り感を共有し学校運営協議会が地域の橋渡しとなって取り組めたらよい。 ・各お便りのペーパーレス化とアプリ導入をできるところから進める。まずはPTAから取り組めるか。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
・今年度の成果と課題を踏まえ、教職員一同で確認し見直したグランドデザインをもとに地域・保護者とも連携しながらより楽しい学校となるよう取組を進めていく。				